

Sakura Citizen Collaboration Team News No.1

——市民協働チーム——



第1回市民協働チームミーティングを6月19日にさくらテラスにて実施しました。

どんなチームができるだろう…どんな取り組みができるかな…少しときどきしながら始まりました。

introduction

辞令交付



(代表：福祉課の薄井淳さん)

交付後、高山部長よりチーム結成の目的及び期待、協働の意義や効果についてお話頂きました。氏家町時代の「^{むげんだい}夢源隊」についてもお話頂き、まちづくりへの世代を超えた想いに「私たちも頑張るぞ!」と胸が熱くなりました。

導入



市民活躍推進係の岡田係長から説明がありました。

よりよいさくら市を作るために行政と住民の協働はますます重要になるということや、来年度設立する市民活動支援センターをうまく機能させるためには職員の市民と連携するスキルが重要であるとのお話頂きました。

趣旨説明

communication

アイスブレイク



市民課の越智さん、高齢課の大橋さんがニックネーム紹介ゲームをしました。

コミュニケーション

さくら市の歌



さくら市の歌～願いをこめた花～を生演奏で、チームで歌いました。何度も繰り返して歌ったので帰ってからお風呂で口ずさんでしまいました。

市民協働推進チームではチームづくりが重要であると考えています。新しい取り組みを生み出すような強いチームになれるよう、今後もチームづくりの方法を模索します。
素敵なアイデアがあれば教えて下さい！

活動事例紹介

learning

講演会

学び



他市の若手協働チームの活動事例紹介として元京都府の長岡京市職員である樋口主事が発表されました。市民との協働を模索した結果、現在も市民団体が活動を継続してくれていることから、行政はどうしても担当者が変わり想いが途切れることがあるが市民を巻き込むことで想いがつながるといった話が心に残りました。

大田原市にて学生や行政と連携しながら高齢者の孤立を防ぐ活動を行っている（一般社団法人）えんがお代表の濱野将行さんにご講演頂きました。濱野さんは27歳という若さで「とちぎ次世代の力大賞」を受賞され、注目を浴びている社会起業家です。

sharing

共有

濱野さんの講演より

★市民活動団体が行政機関に求めていること
＝主体的提案・情報提供・環境を整えること

★市民活動団体が行政職員から言われて嬉しい言葉
＝「こんなのどうですか？」
「何かあったらいつでも言って下さい」

★市民活動団体と職員とのやり取りの中で、個人として応援してくれると感じられる職員が増えると市民活動団体は動きやすくなり活動の幅が広がるとお話されていました。また「協働」という言葉は抽象的ですが、お互いが足りないものを補って利益を出す「業務提携」という言葉に置き換えてイメージするとわかりやすい！とアドバイス頂きました。



協働アドバイザーとして活躍されている濱野将行さん

参加者の感想

◆協働については難しく考えることなく、ある1つの課題や活動を通しての市民と行政のマッチングという印象を持った。

◆講師の話の中で、「市民協働ではなく業務提携というイメージ」という発言があった。市民・行政が協働の元に継続して活動をしていくには、互いにメリットとならなければならぬという考え方が新鮮だった。

◆これまで若手職員主体で、市政や市の課題について意見交換をする場というのがほぼ無かったため、今回のワークショップのような気兼ねなく様々な意見を交換できる場は貴重であり、推進チームの今後の活動に期待が持てるものとなった。



◆今後は市民・団体・行政各々で現在抱えている課題点や今後問題となるであろう潜在的な課題について意見交換しながら、今さら市に求められている活動について、協働で進めていければと思う。

総合政策課 南部

◆他市事例や濱野さんの講義を聞いて、「協働」に対して具体的にイメージ出来るようになった。

◆アイデア次第で可能性が無限大にあり、面白そうだった。

生涯学習課 赤塚



next time

次回

7月17日（水）14時～氏家公民館でファシリテーション（会議進行力）の基礎と実践を学びます。

【問】総合政策課市民活躍推進係